

## 為替週間展望 = ドル円は108円台を中心に一進一退の動きか

[6月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月10日～6月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.55	108.80(11)	108.17(13)	108.30	+0.11
ユーロ・ドル	1.1321	1.1343(12)	1.1269(13)	1.1275	-0.0059
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,116.89	+232.18	日本10年債利回り	-0.130	-0.010
ダウ平均株価	26,106.77	+122.83	米10年債利回り	2.095	+0.014
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 17日 英6月ライトムーブ住宅価格  
米6月NY連銀製造業景気指数  
米4月対米証券投資
- 18日 豪第1四半期住宅価格指数  
豪中銀(RBA)金融政策会合議事要旨  
独5月生産者物価指数  
ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月貿易収支  
独6月ZEW景況感指数  
カナダ4月製造業出荷  
米5月住宅着工件数・建設許可件数
- 19日 NZ第1四半期経常収支  
日本5月貿易収支  
ユーロ圏4月経常収支  
英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
カナダ5月消費者物価指数  
米連邦公開市場委員会(FOMC、18～19日)政策金利
- 20日 NZ第1四半期国内総生産(GDP)  
日銀金融政策決定会合(19～20日)金融政策発表  
黒田総裁記者会見  
英5月小売売上高  
英中銀(BOE)政策金利  
米新規失業保険申請件数、米第1四半期経常収支  
米6月フィラデルフィア連銀景況指数  
米5月景気先行指数
- 21日 日本5月消費者物価指数  
カナダ4月小売売上高  
米5月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】トランプ発言や貿易摩擦関連のニュースに左右されやすい動きが見込まれる中、ドル円は上値の重い展開となり、108円台を中心とするもみ合いになるとした。ユーロ圏の経済指標は弱いものが多く、イタリアの財政問題も懸念される中で、ユーロドルは1.13ドル超では上値を抑えられやすくなるとした。

【米国はメキシコへの関税発動を無期限で延期】

7日にトランプ米大統領がメキシコからの輸入品への関税発動の見送りを表明した。これを受けて週明けの10日、11日は日米を中心に各国の株価が上昇してリスク選好ムードが高まった。

ドル円は11日の海外市場で108.80円台まで上昇を見せた。ただ、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ期待が高まりつつあり、各国の株価は堅調なもの、ドル円の上昇は限定的となっている。一方で、6月に入ってから、ドル円は下げても107.80円付近で下支えされている。

CME FEDウォッチによる利下げ確率は、7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では60%超となっている。11日にトランプ米大統領が米国の政策金利は高すぎると批判しており、利下げへの思惑が高まり、ドルを積極的に買い進みにくい状況となっている。

また、香港で拘束した容疑者を中国本土へ引き渡すことを可能にする「逃亡犯条例」改正案に反対する大規模なデモが起きている。さらに13日にはホルムズ海峡近くでタンカーが攻撃を受けており、地政学的リスクの高まりもあって、米長期金利は低下している。米10年債利回りは、11日に2.17%台まで一時上昇していたが、14日には2.06%台まで低下している。

18～19日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利は据え置きとなる見通し。声明が7月の利下げを示唆するような内容となればドル売りの動きに傾きそうだ。もっとも7月利下げは徐々に織り込まれつつあるとみられ、7月利下げのヒントがあっても極端なドル売りの動きとはなりにくそうだ。19～20日に日銀金融政策決定会合が開催されるが、金融政策に変更はないとみられる。世界的に利下げや緩和スタンスが強まる中、日銀に打てる手は限られているとの見方が根強い。

地政学的リスク、米国での利下げ期待の高まりや米長期金利の低下などから、ドル円は108円台を中心に推移しているものの、上値を伸ばしにくい状況となっている。この流れはしばらく続くともみられ、ドル円は108円台を中心にもみ合いが続く展開か。108円割れでは底堅い動きを見せており、大きな崩れはなさそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に米6月NY連銀製造業景気指数、米4月対米証券投資、18日に米5月住宅着工件数・建設許可件数、19日に日本5月貿易収支、米連邦公開市場委員会（FOMC、18～19日）政策金利、20日に日銀金融政策決定会合（19～20日）金融政策発表、黒田総裁記者会見、米新規失業保険申請件数、米第1四半期経常収支、米6月フィラデルフィア連銀景況指数、米5月景気先行指数、21日に日本5月消費者物価指数、米5月中古住宅販売件数などがある。

#### 【ユーロドルは上値の重い展開か】

11日のNY時間の早朝にトランプ大統領の「対ドルでのユーロ安が米国を不利な状況に置いている」との発言が伝わり、ユーロドルは底堅い動きとなった。トランプ米大統領によるドル高けん制発言もあり、ユーロドルは1.13台で堅調な動きとなった。ただ、12日には英国の欧州連合（EU）離脱への不透明感からドル買いポンド売りの動きとなるとユーロもつれ安して1.13ドルの節目を割り込んだ。

ユーロ圏では景気減速への警戒感が広がり、イタリアの財政問題なども警戒されており、ユーロ独自の買い材料には乏しい。このため、トランプ米大統領によるドル高けん制だけでは、ユーロドルは上値を伸ばしにくいとみられる。こうした状況から、ユーロドルは上値の重い展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1200～1.1350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英6月ライトムーブ住宅価格、18日に豪第1四半期住宅価格指数、豪中銀（RBA）金融政策会合議事要旨、独5月生産者物価指数、ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月貿易収支、独6月Z

EW景況感指数、カナダ4月製造業出荷、19日にNZ第1四半期経常収支、ユーロ圏4月経常収支、英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数、カナダ5月消費者物価指数、20日にNZ第1四半期国内総生産（GDP）、英5月小売売上高、英中銀（BOE）政策金利、21日にカナダ4月小売売上高などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。